

# NEWS RRM

[ニューズ] Regional Resource Management



写真：令和5年度入学時集合写真

学生時代より私は考古学を専攻してきた。文字もない古い時代の研究と思われがちだが、私の研究対象は中世の土器や石造物で、むしろ記録が豊富な時代の産物だ。それゆえにモノだけで歴史がすべて語れるわけではない。文書や記録にもとづく文献史学の成果との対峙は避けて通れないが、文字からわかることと、モノからわかることがつねに一致することとはかぎらない。時に生ずる不一致をどう理解すべきか、考古学と文献史学という垣根を越えて、なんとかつながらぬものかと腐心

の奇想天外な面白さだ。ただ、そうした思いと裏腹に、十年近くの時を経てようやく実感しかけたこともある。そして実はそこが、地域資源マネジメント研究科の「妙味」かもしれないとひそかに考えている。それは「越えて、つなぐ」ことの

四月より研究科長を引き受けることとなった。平成26(2014)年に開設した研究科はまもなく十年の節目を迎える。「十年一昔」というが、開設以来勤務してきた身としては、もうそんなに経ったのかという戸惑いが先にたつ。十年近くたった今でも、地域資源マネジメント研究科とはどんな大学院ですかと問われる機会は多い。その場では地域資源を手がかりに「大地・自然・人間のつながり」を考えると、地域の「宝」の保全や活用ができる人材の育成と答えてきた。プレのない確固とした理念といえは聞こえはいいが、一本調子の繰り返しにすぎないのではないかと、ふと忸怩たる思いにとらわれることもある。

これは自分の研究だけの話かと思っていたら、必ずしもそうではなかった。地球科学や生態学、人文社会科学という研究科の掲げる専門分野は、考古学と文献史学よりもはるかに隔たりは大きい。高校生の時に文系を選択した私にとって、これらははるか昔に「決別」したはずの学問だった。しかし、土器や石造物の材質を考えていけば地球科学につながる、文化財の成り立ちを調べていけば天然記念物のコウノトリにつながった。はるか昔に自分で勝手に引いたつもりの境界線を越えて、研究科をとりまくさまざまな事物がつながってくるのである。これはとても面白い衝撃だった。

## 越えて、つなぐーコウノトリのように

教授 中井 淳史

イギリスの人類学者、ティム・インゴルドは線(ラインズ)の軌跡になぞらえて、人間の営みのみならずあらゆる生命が複雑にもつれあい、結び合って世界という織物がつくりだされると語るが(ラインズ線の文化史)、これを研究科ふうというならば、コウノトリにたとえることができそうだ。地上で人間がつくる勝手な境界やしがらみを気にもかけず、彼らは自由に飛び回り、舞い降りた先の人々と私たちをつないでゆく。越えて、つなぐ。研究科の門をくぐった学生諸君には、コウノトリのように自由に知の世界を飛び、さまざまな学問の面白さに触れてほしい。幸運にもほんの少しだけ早くそれに気づくことのできた一人として、ささやかながらそのお手伝いができればと願っている。

### Information

#### 冬のオープンキャンパス2023

Information 01

地域資源マネジメント研究科の一般公開「秋のオープンキャンパス」を2023年12月24日(日)に開催します。オープンキャンパスでは研究科や入学試験の概要紹介、施設紹介などを行います。今回も対面とweb サービス(Zoom)を併用してオープンキャンパスを開催します。当研究科に興味のある方、受験を検討されている方のご参加をお待ちしております。

日時	2023年12月24日(日) 13:45~16:15
場所	兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス(豊岡市祥雲寺128 番地)
参加方法	12月19日(火)までにメールかFaxにて参加申し込みを行ってください。オンライン参加希望者には、ZoomアクセスIDを通知し、研究科資料を郵送します。
内容	(1)研究科、カリキュラム、入学試験についての説明 (2)研究施設や研究フィールドの見学、在学生による研究紹介 (3)個別相談 など

#### 入学試験情報

(博士前期課程C日程・博士後期課程第2回) Information 02

博士前期課程C日程入学試験(全日程合わせて定員12名)、博士後期課程第2回入学試験(全日程合わせて定員2名)を2024年3月3日(日)に実施します。試験内容は専門試験(小論文)と口述試験です。会場は豊岡ジオ・コウノトリキャンパス(豊岡会場)と神戸商科キャンパス(神戸会場)から選ぶことができます。

日時	2024年3月3日(日)
願書受付	2024年2月7日(水)~2月20日(火)

※事前に受験資格審査が必要な場合は、2024年1月21日(日)~2月3日(土)に審査書類をご提出ください。

#### 山陰海岸ジオパーク 第7回みんなの発表会

Information 03

日時	2024年1月21日(日) 10:00~16:00
場所	豊岡稽古堂(旧豊岡市役所) 〒668-0033 兵庫県豊岡市中央町2-4
対象	どなたでも参加・発表できます(定員60名)
参加料	無料
発表内容	地域や団体、個人で取り組んでいる活動の紹介から新たに発見した珍しいもの、子どもの自由研究までなんでもOK!
申込方法	2024年1月9日(火) 17:00 までに必要事項をFAX:0796-22-5200 またはE-mail:rrm@ofc.u-hyogo.ac.jpへお送りください。 ※詳しくは兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科ジオ研究領域ホームページまで



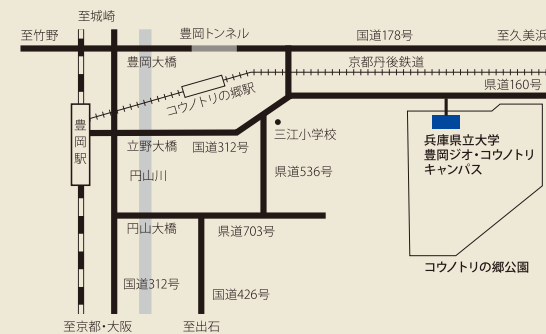
#### 【お問い合わせ】

各催しの詳細はウェブサイトをご覧ください。あるいはメール、電話にてお気軽にお問い合わせください。



#### 兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 RRM

〒668-0814 豊岡市祥雲寺128  
(兵庫県立コウノトリの郷公園内)  
兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス  
Tel. 0796-34-6079 Fax. 0796-22-5200  
E-Mail: rrm@ofc.u-hyogo.ac.jp  
<http://www.u-hyogo.ac.jp/rrm/>



#### 【写真提供】

- 中井 淳史：令和5年度入学時集合写真
- 菊地 俊夫：カナダ・バンクーバー近郊のサークルファームツアーにおけるイチゴの摘取り農園
- 近藤 佳里：熊本県菊池渓谷における地学巡検の様子 ESF(Earth Science Festival)にて
- 末永 雄貴：調査の様子
- 石 静愛：出石酒造の酒蔵



# 2023年度 博士前期課程在学生の研究紹介

地域資源マネジメント研究科は2014年度の開設以降、多数の博士前期課程修了者を送り出しています。本号では博士前期課程の研究について紹介します。

## 地域資源 マネジメント 研究科



写真：熊本県菊池渓谷における地質巡検の様子ESF(Earth Science Festival)にて

育とフォーモナル教育(学校教育)の関係を分析し、これからの教育を展開するための提案を行います。その際、諸外国における地質学教育の好事例を分析します。

本研究では、子どもから大人までを対象にした地質学教育のあり方を提案するために、近代における地質学教育の変遷を文献調査により明らかにし、加えて同時期における海外の地質学教育との共通点、相違点を調査・検討します。

日本列島は複数のプレートが収束する境界にあり、活発な地殻変動により形成されたため、地形・地質構造は複雑となり、山地には活火山や活断層が、平野には軟弱層が厚く分布しています。そして日本の地質学は、20世紀前半は資源地質学、後半は土木地質学として発展してきたため、専門的な職業以外の人々にはあまり関心を持たれませんでした。しかし最近では、地球環境問題や大規模自然災害の解明などグローバルで学際的な課題に地質学が貢献することが求められるようになってきました。そのため、市民にとっても日本列島の地質基盤の理解にとどまらず、地球を広く理解することが今後一層必要とされていますが、まだまだ地質学に対して人々の興味は低く、学校教育でも重要視されていません。そのような日本において地質学の教育活動を強化する方法の一つは、教育内容的根拠に縛られないインフォーマル教育(公教育以外の教育)ではないかと考えました。日本における近代以降の地質学に関するインフォーマル教育(学校教育)の関係を分析し、これからの教育を展開するための提案を行います。その際、諸外国における地質学教育の好事例を分析します。



写真：調査の様子

また本研究では、食性解析の他に糞粒数からノウサギの生息密度を推定する糞粒法を用いた調査や、カメラトラップを用いて食害の有無が野生動物の環境利用に作用しているかといった調査なども実施しています。これらの結果から、上山高原でのシカによる採食圧の影響を定量的に評価していきたいです。

私の調査地である上山高原は兵庫県北部に位置し、絶滅危惧種であるイヌワシの生息する、中国地方でも貴重な草原環境を有します。また、地元の自治体や専門家から構成された上山高原自然再生協議会が発足しており、貴重で豊かな自然を後世に残すべくスキ草原やブナ林の復元事業が進められています。

しかし、近年シカの食害によりスキ草原が衰退し、草食動物が殆ど摂食しないワラビが繁茂する草原に変わりつつあります。同時に、イヌワシの主要な餌動物として知られるノウサギの出現頻度は年々減少しています。

そこで修士課程では、シカの食害がノウサギの食性や生息数に与える影響を解明することにしました。これを調べるため、本研究ではDNAメタバーコーディングによる食性解析法を用います。この手法は対象種の詳細な食性を非侵襲的に調べる方法として、近年特に注目されています。具体的には、ノウサギの糞に含まれる植物繊維のDNAから特定領域の塩基配列を次世代シーケンスによって解読し、データベースと照合することにより食性を種レベルで判別することができます。

今回用いる糞サンプルは、既存調査によって採取された糞(シカが増加する以前のノウサギ糞)と、今年度と来年度に採取する糞(シカが増加した後のノウサギ糞)です。それぞれの時期の糞から得られる食性リストを比較することで、シカの採食圧の増加がノウサギの食性に与える影響について評価する予定です。



写真：出石酒造の酒蔵

対してより多くの共感を持つことができました。それだけでなく、先生やクラスメートからお世話になり、研究課題以外に中国の文化遺産を選んで発表することで自国以外の人々からの意見も多く得られ、とても勉強になりました。

どの都市にも独自の歴史的記憶があり、何百年も受け継がれてきた歴史文化は年代ごとに新しい意味を生み出します。その中で歴史的街並みは都市の記憶の不可欠な部分であり、歴史的建造物を中核として、これが現在の住民の日常生活の基礎となる周辺環境と調和することによって重要な価値を生み出します。その意味で歴史的建造物は重要な核心的標識です。

私の研究では出石城下町を対象として、昭和以降の都市環境の変化のなかで歴史文化遺産としていかに保存されてきたかを調査します。そして町並みの文化資源化を意識して、都市の変化と対応した保存や活用の方について考えます。その結果得られた知見を、中国の歴史文化遺産の保存や再生を考える手がかりとします。

研究の方法として、まず江戸時代から現在までの出石城下町の地図を収集し、複数の出石城下町の地図を比較して、街並みの変化を考えます。例えば出石酒造で、昔の地図には表示されていませんが、現在の観光地図では見ることが出来ます。今後他の観光地、道路、河道などの位置を一つ一つ比較していき、現在の出石城下町に残る歴史的要素と近年に開発された地形や施設の把握を行います。

なぜ兵庫県立大学を選んだ理由として、留学生として日本と中国のことをもっと注目していますので、教授の経歴は中国を訪問したことがあることを知って、大学に

## GEO Study field [イノ研究領域]

### インフォーマル教育における地質学の展開の可能性

Kondo Yukari  
近藤 佳里

## ECO Study field [チノ研究領域]

### 上山高原におけるシカの採食圧がノウサギの食性に与える影響について

Suenaga Yuki  
末永 雄貴

## SOCIO Study field [ソノ研究領域]

### 出石城下町の変遷と町並みの文化資源化

ishi sei bun  
石 静雯

# 地域資源を活かしたツーリズムの過去、現在、未来

菊地 俊夫 「東京都立大学名誉教授・プレミアムカレッジ特任教授」

従来のツーリズムは地域のキラコンテンツに基づいた発地型観光であった。発地型観光は出発地でエイジェントに旅行料金を支払い、エイジェントの企画や運営でツーリズムを行うもので、観光に関連する金の大部分はツーリズムを担う地元に着ることはなかった。そのため、観光の発展と成功はキラコンテンツや魅力的なアトラクションをもつ地域とそれらを商品化できるエイジェントに限られていた。しかし、1990年代後半以降、ツーリズムによる地域振興が求められ、ツーリズムの形態は着地型観光に変化する傾向を強めた。着地型観光は、観光者が観光地に向き、そこでさまざまなコンテンツやアトラクションを個別に選択してツーリズムを行うもので、観光者が消費する金はツーリズムを担う地元で落ちることになる。そのため、地域では観光で地元が落ちるさまざまな工夫が個々に求められるようになり、多様な地域資源が活用されるようになった。その代表的な事例は、「農」や「食」、そして「自然」の資源を利用するルーラルツーリズムやフードツーリズム、あるいはジオツーリズムなどである。

ルーラルツーリズムの典型的な事例として群馬県川場村がある。川場村は林業を中心とする農村であったが、農林業の低迷により人口流出が進み、高度経済成長期には高齢化農村や過疎農村になってしまった。このような農村を活性化させる方策としてルーラルツーリズムが考えられた。ここでのルーラルツーリズムの考え方は、多様な小さな地域資源を掘り起こし、それらのキラコンテンツにならない地域資源を組み合わせ、内発的にルーラルツーリズムを発達させることであった。同様に、フードツーリズムの事例も、カナダのバンクーバー島のワインツーリズムやバンクーバー近郊農村のサークルファームツアーでみられるように、「食」と異なる「食」を組み合わせることで、魅力的で多彩なプログラムがつけられ、多くの入り込み客を呼び込んでいる。さらに、ジオツーリズムにおいても、糸魚川や秩父の事例でみるように、ジオサイトだけの組み合わせだけでなく、ジオサイ



写真：カナダ・バンクーバー近郊のサークルファームツアーにおけるイチゴの摘取り農園(2016年6月 菊地 俊夫撮影)

イトと多様な地域資源との組み合わせにより、人を呼び込むことができ、多くの人びとに満足を与えられるようなツーリズムがつくられている。つまり、地域資源を組み合わせることが着地型観光にとって重要であり、その組み合わせを考えることは着地型観光を担う地域の醍醐味でもある。

# RRM Introduction